

2023.2.26 新潟市遺跡発掘調査速報会2022

古津八幡山遺跡

— 明らかになった弥生時代の埋葬施設と新たに見つかった方形周溝墓・竪穴建物 —

新潟市歴史文化課 文化財センター 相田泰臣



古津八幡山遺跡遠景（北東から）

これまでの発掘調査

- ・遺跡が最初に発見された1987(昭和62)年の第1次発掘調査から2022(令和4)年まで、計25回の発掘調査を実施。

史跡をより適切に保存活用していくため、平成29年～令和4年まで調査が不十分な場所(未指定地・民有地)について確認調査を実施。

⇒遺跡で最大の大型竪穴建物(SI1)発見

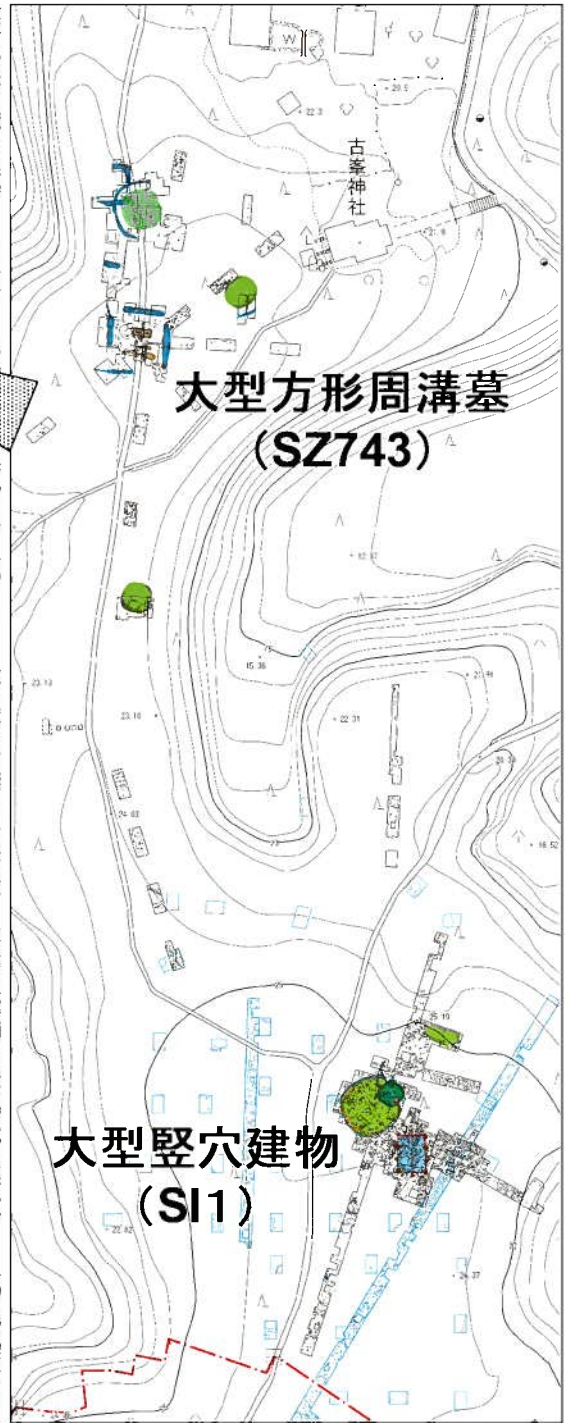
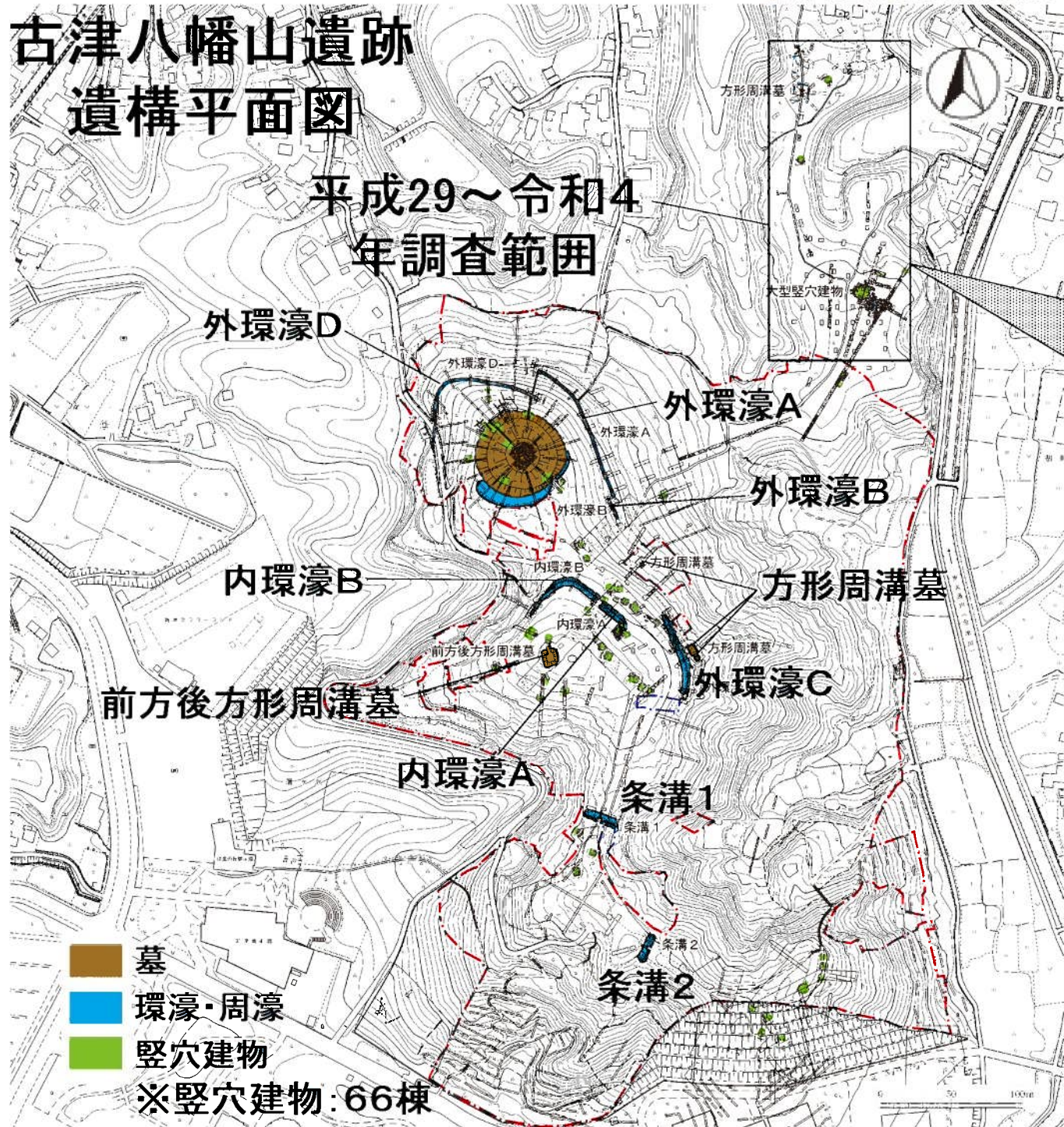
平成29～令和2年調査

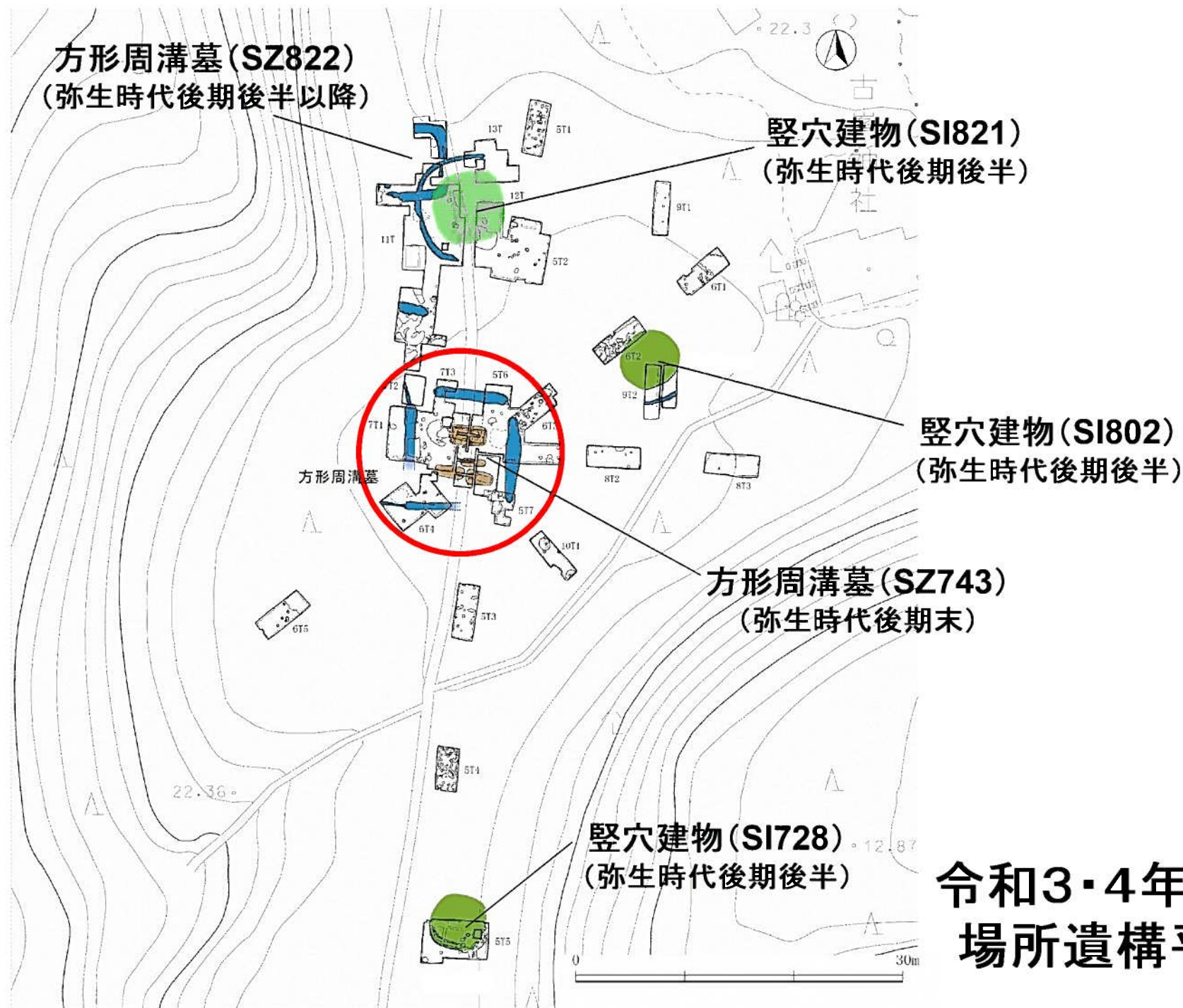
⇒遺跡で最大の方形周溝墓(SZ743)発見

令和3・4年調査

古津八幡山遺跡 遺構平面図

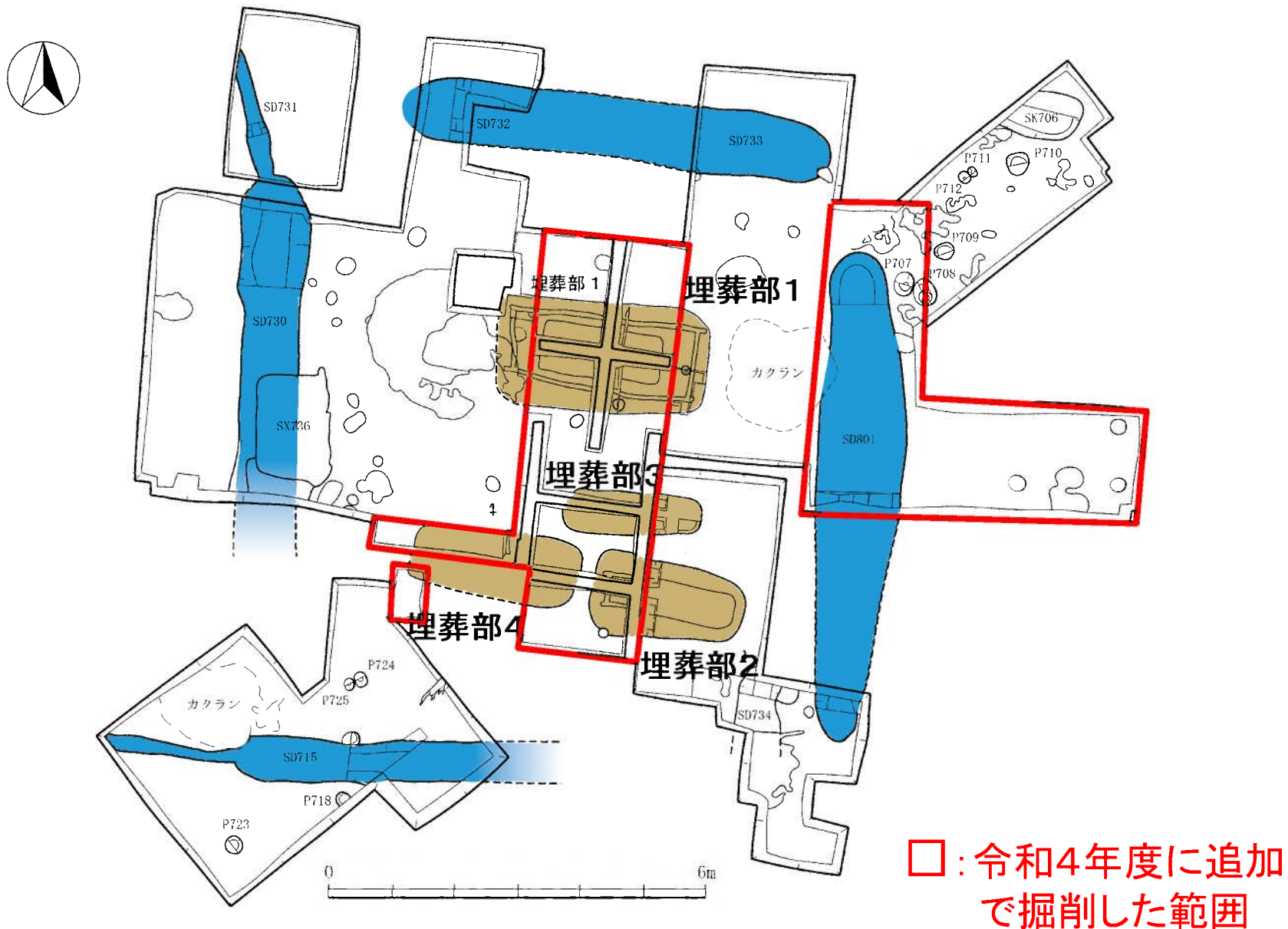
平成29～令和4
年調査範囲



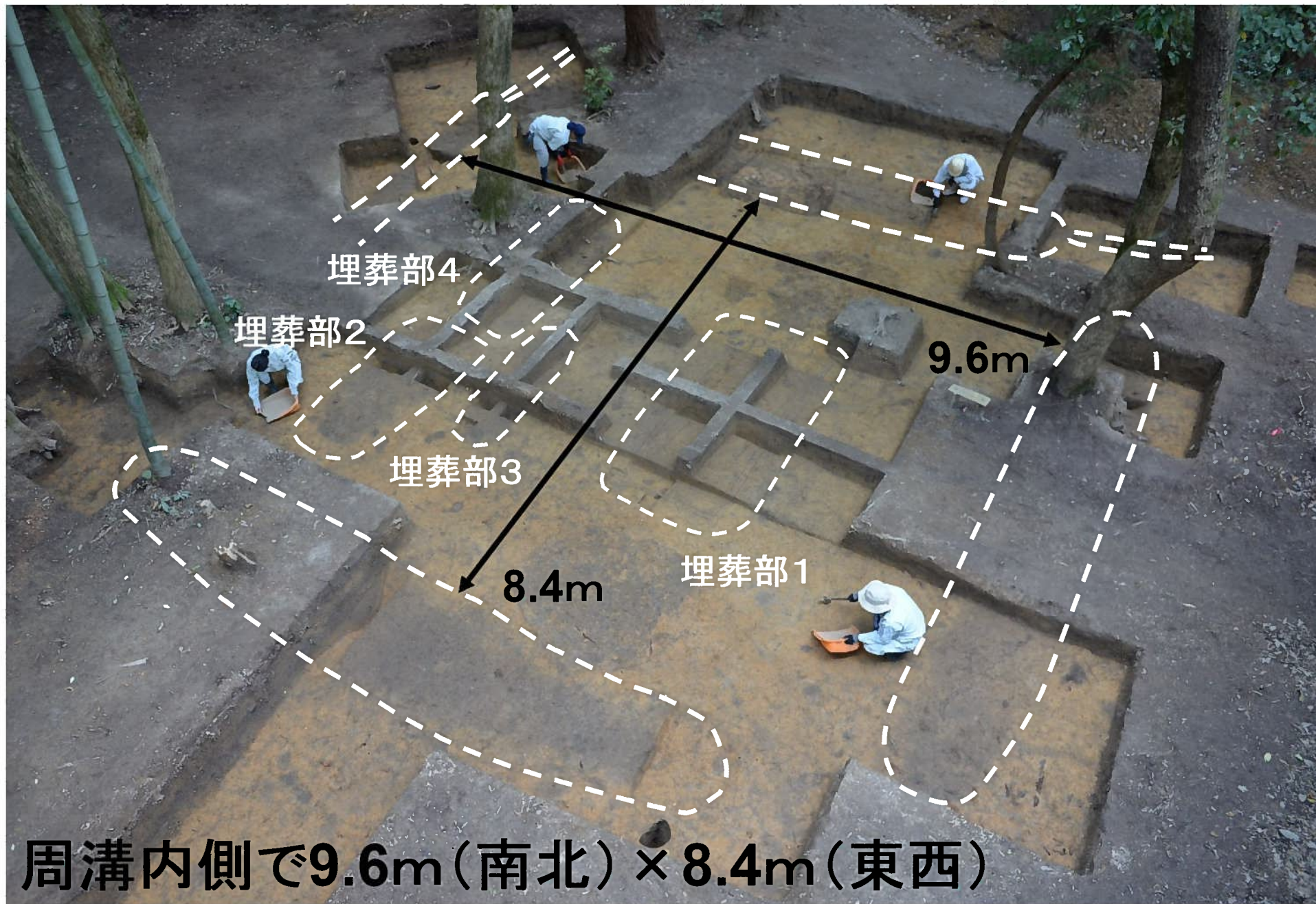


令和3・4年度調査 場所遺構平面図

周溝内側で9.6m(南北)×8.4m(東西)

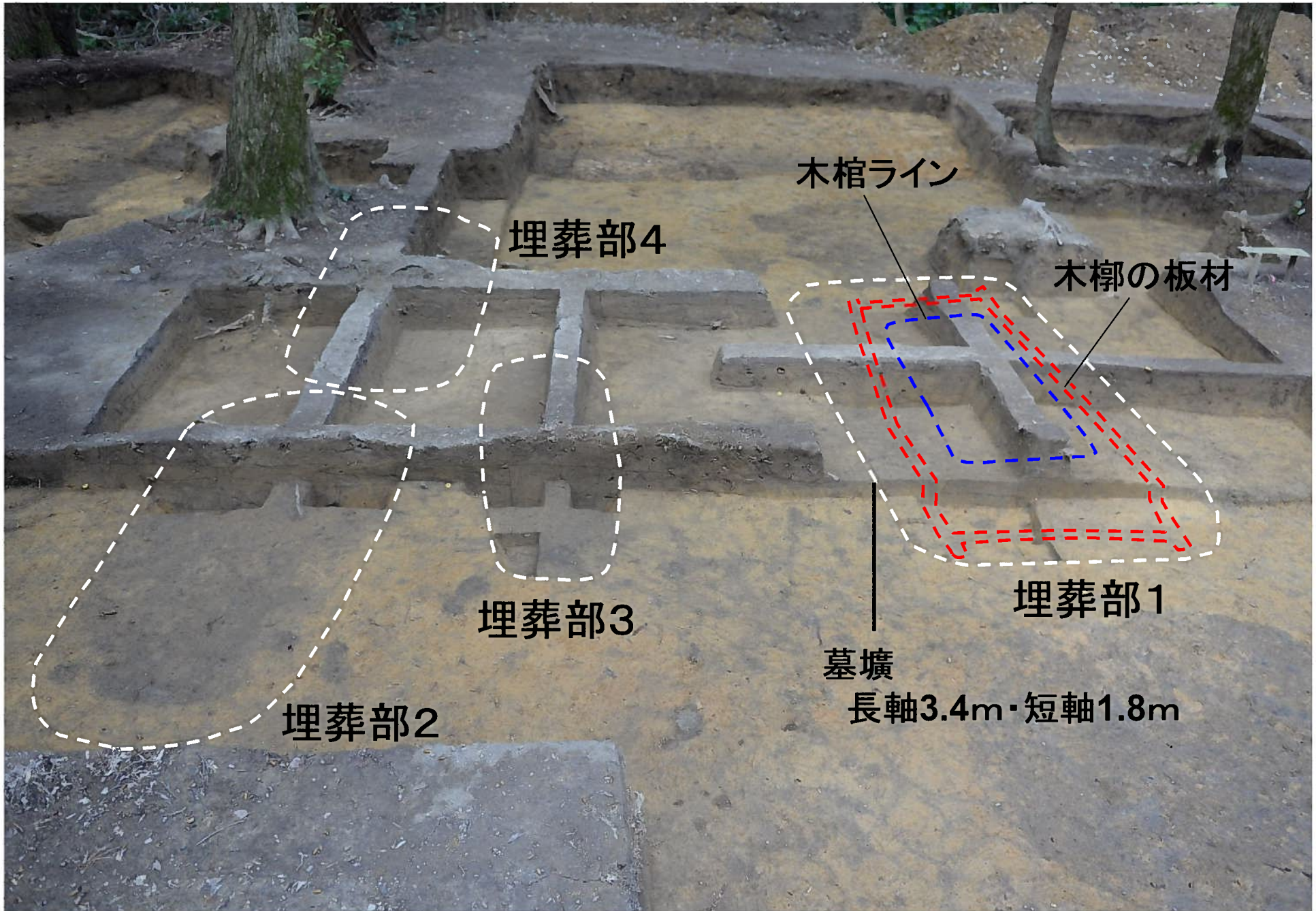


方形周溝墓(SZ743)

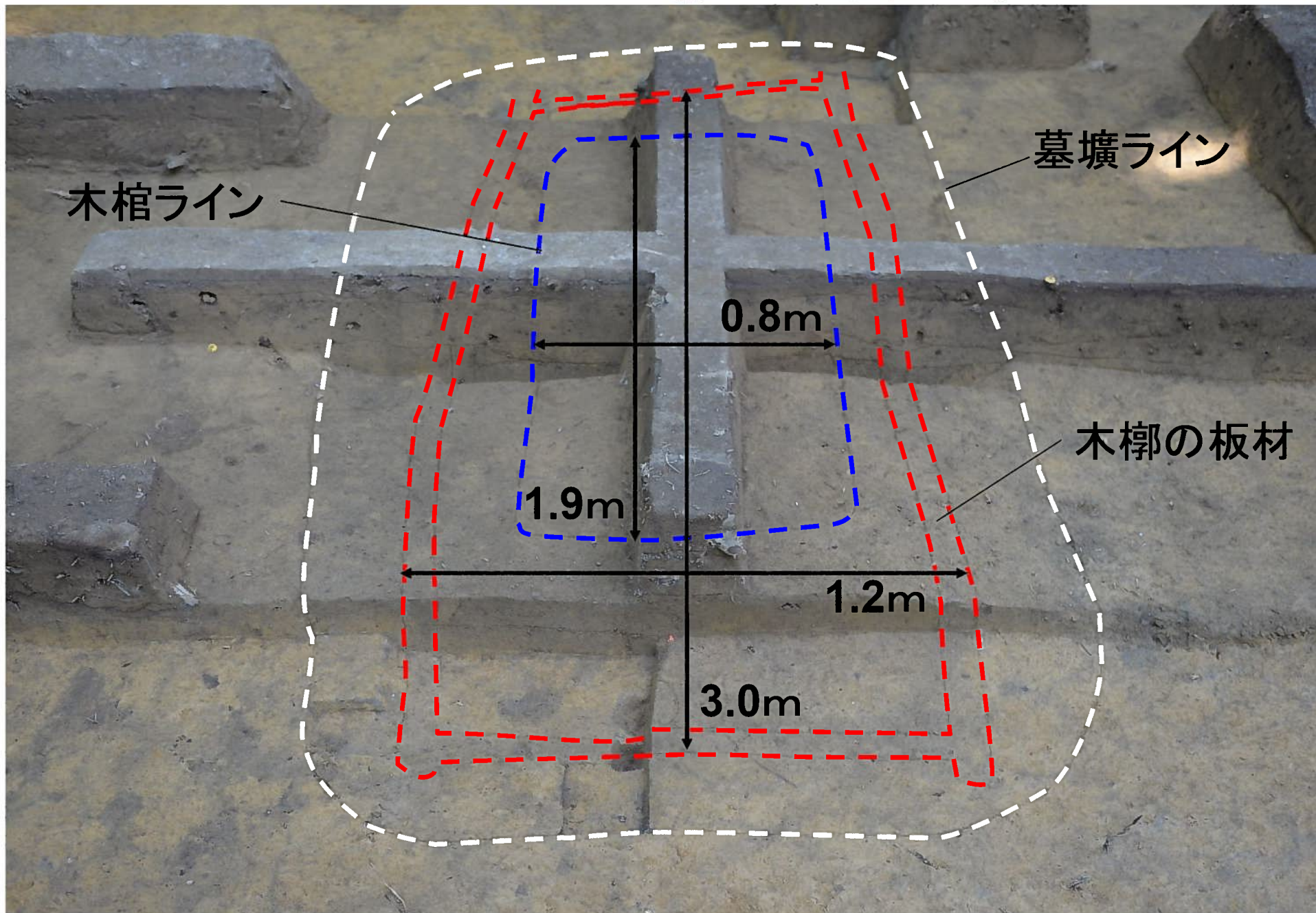


周溝内側で9.6m(南北)×8.4m(東西)

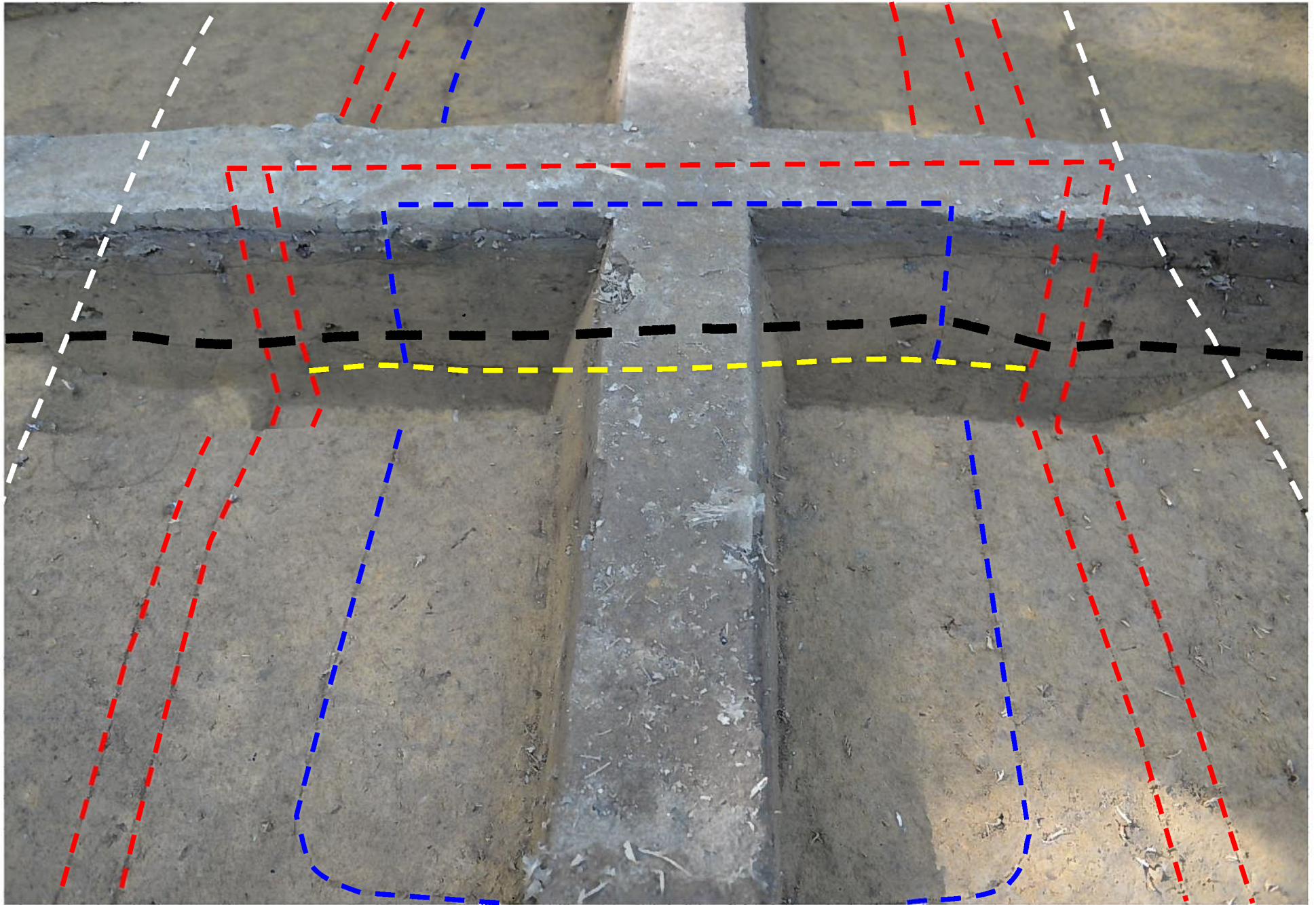
方形周溝墓(SZ743 北東から)



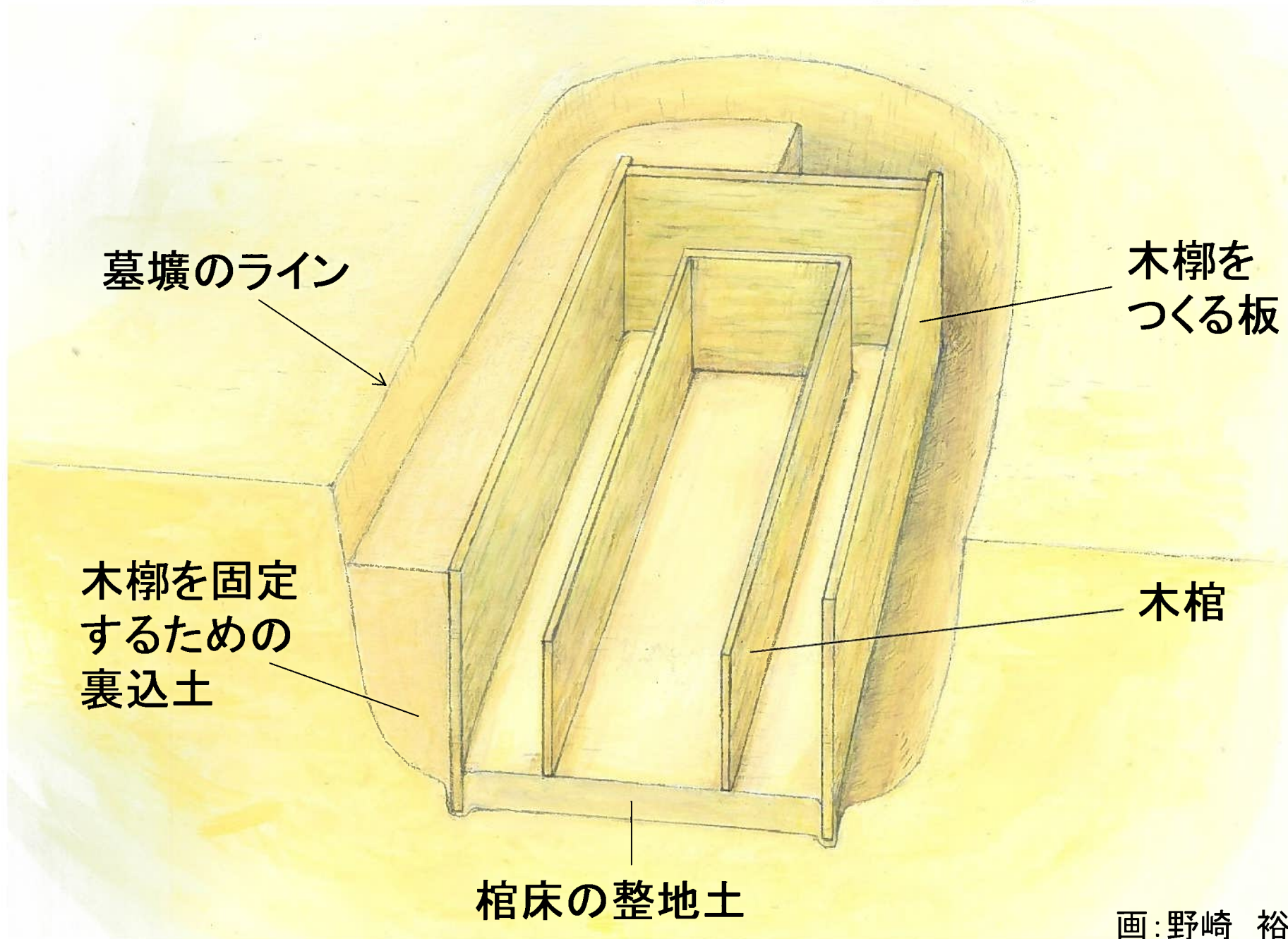
方形周溝墓(SZ743)の埋葬部1～4(東から)



方形周溝墓 (SZ743) 埋葬部1 (東から)

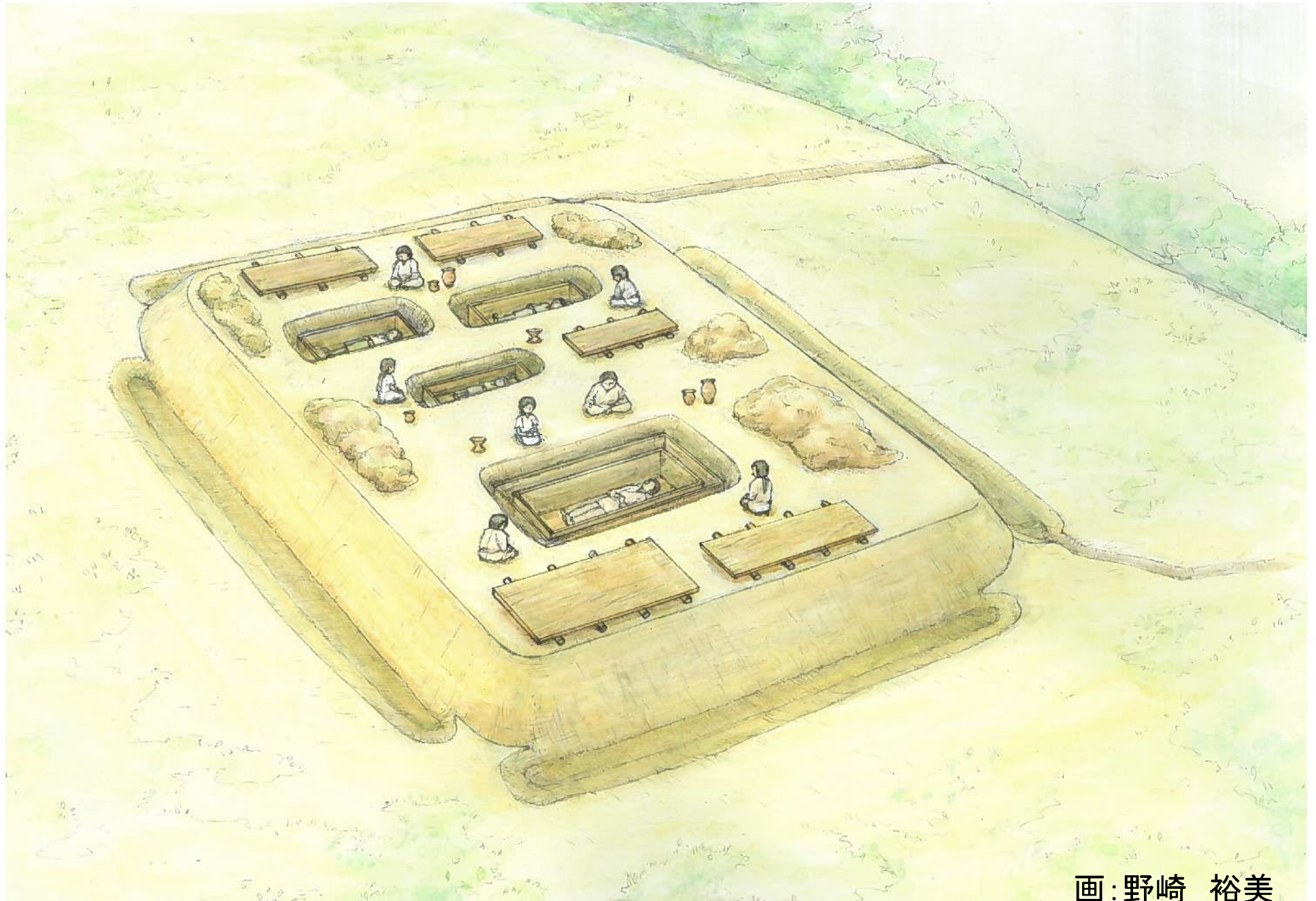


方形周溝墓(SZ743)埋葬部1(東から)



画:野崎 裕美

方形周溝墓(SZ743)埋葬部1のイメージイラスト



画:野崎 裕美

方形周溝墓(SZ743)の復元イメージイラスト



周溝



埋葬部1



埋葬部1

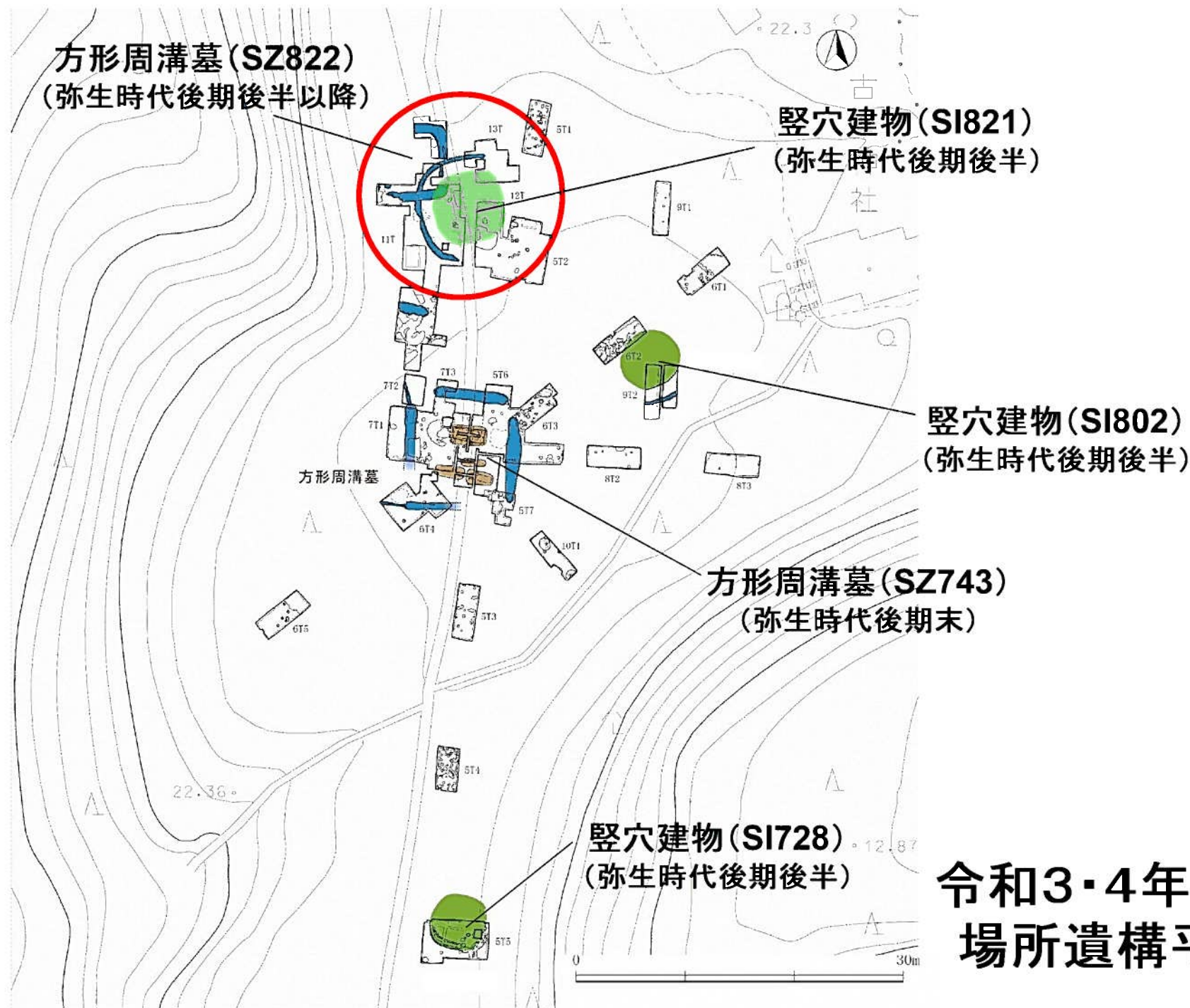
周溝



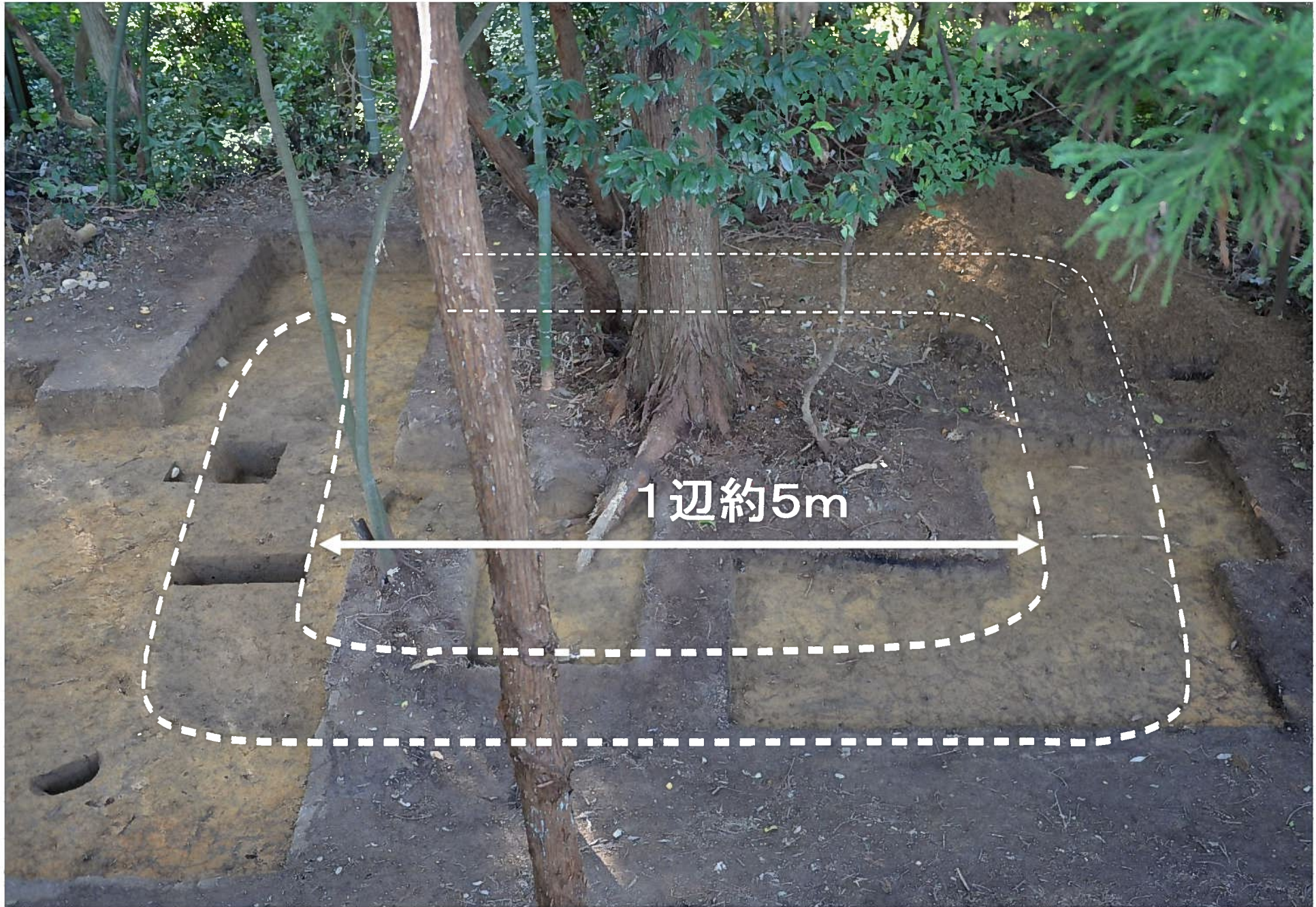
埋葬部1

弥生時代後期末頃

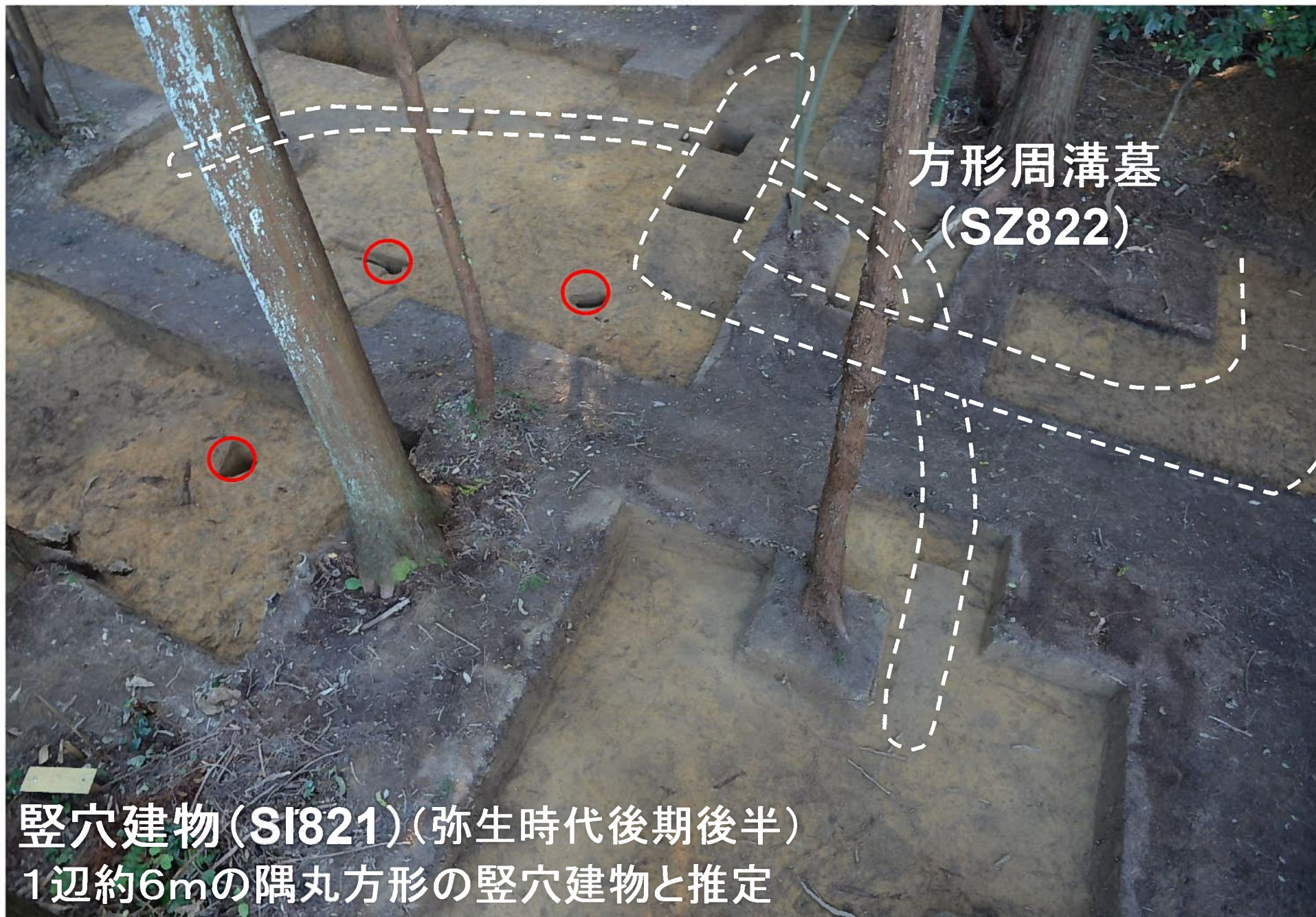
方形周溝墓(SZ743)出土遺物



令和3・4年度調査
場所遺構平面図



方形周溝墓(SZ822 東から)



方形周溝墓
(SZ822)

竪穴建物(SI821)(弥生時代後期後半)
1辺約6mの隅丸方形の竪穴建物と推定

竪穴建物と方形周溝墓(SI821・SZ822 北東から)



令和3・4年度調査
場所遺構平面図

竪穴建物(SI802)

直径約5.5mの円形と推定(弥生時代後期後半)



竪穴建物(SI802 西から)

古津八幡山遺跡の動向

時代	北陸南西部編年	古墳集成編年	新潟シンポジウム編年	古津八幡山遺跡 <small>※赤字は平成29年度以降の調査で見つかった遺構</small>																				
弥生時代中期	小松 専光寺 戸水B			環濠	竪穴建物	掘立柱建物	墓																	
				—	—	—	—																	
後期前半 弥生時代後期 後期後半 後期末 (古墳時代終末期)	1群 V-1群 V-2群 V-3群 猫橋式		1期				方形周溝墓																	
				2群 2-1群 2-2群 法仏式	2期	集落の出現 外環濠の掘削	SI802・SI821 SI0603 SI03S03 SI03S05 SI0602 SI728 掘立柱建物群？	SX1005 SX1006 SX1004																
									3群 3期	環濠の一部埋没 →一部環濠の再掘削？ 内環濠掘削？	SI03S06 SI03N03	SZ743 (大型方形周溝墓) SZ822												
	4群 4期	SI1 (大型竪穴建物) SI465	前方後方形周溝墓 (SX03S14)																					
				5群 5期	6期	高地性集落の廃絶、平地での集落の出現																		
	7群 古府クルビ式 1期 7期	8群 2期 8期	9群 高島式 3期 9期							10群 4期 10期														
				7群 古府クルビ式 1期 7期	8群 2期 8期	9群 高島式 3期 9期	10群 4期 10期																	
																	7群 古府クルビ式 1期 7期	8群 2期 8期	9群 高島式 3期 9期	10群 4期 10期				

↓古津八幡山古墳
(古墳中期)

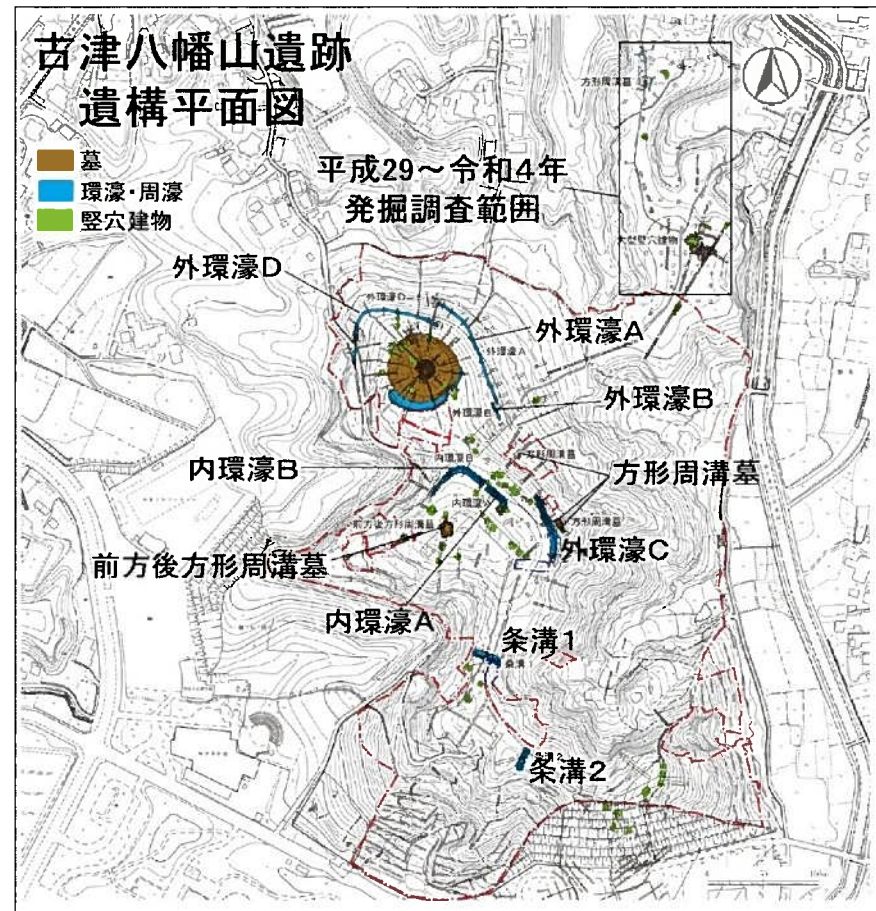
まとめ

【弥生時代後期後半】

- ・ 竪穴建物や墓などの遺構密度の中心は丘陵頂上域
- ・ 丘陵中腹域では竪穴建物が点在



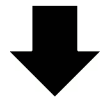
頂上部と中腹域における遺構の比較(空間利用の違い)などについては今後の課題。



まとめ

【弥生時代後期末～】

- ・大型の方形周溝墓(SZ743)出現⇒墓域を形成
 - ※複数の埋葬施設、木槨構造の埋葬施設
- ・大型の竪穴建物(SI1)
 - ※多柱(6本柱)構造、中央土坑、排水溝



遺跡北東部の丘陵中腹域の利用が活発に。
西の有力集落との関係がより強まったか。
建物やお墓の規模や構造など、調査地が他とは異なる空間として認識・利用されていた可能性も。

